



学校だより

## 大塚

特別号

ホームページアドレス <http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/otuka-s/>

平成26年度10月3日

京都市立大塚小学校 NO.9

TEL 592-6141

学校教育目標 自らの個性を生かし、主体的・意欲的に活動する子の育成

次々と一段高い目標に向かって挑戦し続ける学習集団づくりを基盤に～

子どもたちの今と未来のため、社会のあらゆる場で  
「子供と共に育む京都市憲章」を実践しましょう！  
  
京都はぐくみ憲章

朝晩涼しく感じられる季節となりました。日頃より本校教育にご理解・ご協力いただきありがとうございます。

さて、本校では、例年7月と2月に保護者・地域の方々から学校評価を頂き、その結果を真摯に受け止め、教育実践の改善・推進に努めています。今年度も、同じ観点について、子ども達・保護者・教職員のそれぞれの立場で振り返るための項目を設定し、アンケートを実施しました。お忙しい中、アンケートにご協力頂き、誠にありがとうございました。アンケートの結果及び考察について公表し、学校・保護者・地域が一体となって現状を確認し、それぞれの立場で課題を明らかにして、今後の教育活動の実践に生かしていくことが大切であると考えております。共に子ども達の健やかな成長につなげていきましょう。

なお、マークシート方式によるアンケートを実施し、コンピュータソフトによる集計作業をおこなったため、読み取り不能となったデータが若干あったり、未記入の項目も全体数に入れる処理をしてしまったりすることが僅かに起き、結果の合計が100%になっておりません。その点どうぞご了解いただきますようお願いいたします。

### <学校評価アンケートの集計結果について>

「学校生活は、楽しいか」「勉強はわかりやすいか」「先生に大切にしてもらっているか」の項目では、A(そう思う)、B(大体そう思う)を合わせ90%前後の子ども達や保護者の方からよい評価を得ていることを嬉しく思っています。しかし、「学校生活は、楽しいか」「勉強はわかりやすいか」の項目の低学年を見てみると、C(あまりそう思わない)、D(そう思わない)を合わせて10%以上あり、気になります。学校が楽しいところとなるように心がけ、今後もさらにわかりやすい授業へ向けて、精一杯取り組んでいきたいと考えています。

「友達を大切にしているか」の質問にも90%以上の方からよい評価を得ています。子ども達の人間関係づくりは、比較的うまく進んでいるようです。子ども達の友だち関係が益々スマーズにいくよう、教職員も引き続き子ども達をサポートしたり、指導したりしながら、見守っていきたいと考えています。ご家庭でのご支援や言葉かけも重要なポイントです。ご協力どうぞよろしくお願ひいたします。

「先生に相談できるか」の項目は、C・Dを合わせた割合が他と比べると少し多いです。この結果を学校として大変く受け止めています。信頼関係こそ教育活動の原点と考え、今後さらに心に寄り添う接し方に心掛けていきます。そして、必要な時に助けを求めたり、相談をしたりできる信頼関係を更につくっていきたいと考えています。

「毎日必ず宿題をするか」の項目は90%の子ができていると答えています。保護者の方が、しっかりと声かけなどをしてくださった結果であり、家庭学習の定着が進み、習慣化してきているのでしょうか。とても、嬉しい傾向です。また、「家庭での読書」も、「している」と答えている子が低学年で73%、高学年で55%となり、半数以上が家庭で読書の時間ももっていることがわかります。学校から発信しています『大塚家庭学習の勧め』の「夕読書のすすめ」を読んで、取り組み始めたという保護者からの声もありました。読書は、学力の基盤となる大切な『ことばの力』を養い、「本の世界」でたくさんの経験をさせてくれます。引き続き家庭での読書の時間を大切にして、子どもへの働きかけをお願いします。また、まだ取り組めていない家庭では、ぜひともこの機会に読書の時間を設けて欲しいです。

「元気よく挨拶をしているか」の項目では、子ども達の85%がA(そう思う)、B(大体そう思う)と答えています。しかし、元気にあいさつができるないと感じている児童も10%以上おり、恥ずかしい思いが払拭できていないようです。登校指導をしていただいている方から、「声をかけても返ってこない」という声もありました。引き続き意識付け等をして、挨拶を大切にしていきたいものです。また、「学校であったことを話す」という項目については、A(そう思う)、B(大体そう思う)と答えている方が95%を超え、保護者の方が心がけていただいていることが伝わってきます。学校からも良いコミュニケーションのきっかけになるような情報がお伝えできるよう心がけたいと思います。

地域行事への参加についての意識は、他の項目に比べてA・Bを合わせても70%以下という結果です。学校で育てるもの、家庭や地域のなかで育てるもの、それぞれがその役割をしっかりと自覚し、連携し合って子どもたちの健やかな成長を支えることが重要であると考えています。

学校運営協議会では、登校途中の児童が以前よりも挨拶をするようになったという声を聞きました。しかし、班長が元気な挨拶の手本を示さなければ、広がらないという現状があります。再度学校からも全校児童へ働きかけていくことを確認しました。また、親子の対話で低学年の意識の低さが話題となりました。ライフスタイルの変化によるものかもしれませんのが、対話が増えるよう学校の様子を学級通信等で伝えていくことを確かめました。今後も、学校は保護者の皆様・地域の皆様と共に協働して教育活動を推進していきたいと考えています。どうぞご支援・ご協力をよろしくお願ひします。